

平成30年度 倫理 シラバス

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
公民	倫理	3 学年	必修	2

1 公民科の目標（学習指導要領）

広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。

2 倫理の目標（学習指導要領）

人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

3 倫理の学習目標

- (1) 現在の高校生の実態や現代課題となっている問題についての認識を深めながら、人間の存在や価値についての理解と思索の深化をめざさせる。
- (2) 近隣諸国から受容した思想・文化から形成した日本固有の思想・文化について理解を深めることによって日本や日本人としての在り方、ものの見方、考え方について思索することができる力を培う。
- (3) 相互依存の高まる現代の国際社会において、国際平和の確立や人類の福祉に貢献することの意義を理解し、21世紀の国際社会において主体性のある日本人としてのありかた、生き方についての思索を深めさせる。
- (4) 先哲の思想を手がかりに、広い視野から人生観・世界観の形成をはかることができるようにする。

4 教科書及び補助教材

教科書:「高等学校 改訂版 倫理」(第一学習社)

資料集:テオリア最新倫理資料集(第一学習社)

5 授業方法・形態

講義・作業・発表等が中心となるが、グループ学習やディベートなどをとり入れる。

教科書・資料集・新聞・ビデオ教材などを多面的に利用し、ノートをまとめていくことで内容の深化・理解を図る。時事問題や国際問題などにも目を向け、他教科や既学習範囲とも関連づけた学習になるように工夫する。

6 評価規準

〈観点別評価〉

① 関心・意欲・態度

現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。

② 思考・判断・表現

現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

③ 資料活用の技能

現代の社会と人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。

④ 知識・理解

現代の社会的事象と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

※ 成績評価の方法は上記の4つの観点を柱にして定期考査・授業中の発表・意欲・学習態度・考える力・前向きに取り組む姿勢、課題やノートの提出、豆テストなどから他面的に行う。

7 定期考査

出題範囲は授業の進度に準ずる。教科書・資料集等授業と関連させ出題するが、時宜に応じた時事問題等も出題する。

月	単元名	学習内容・学習のねらい・留意点	配当 時数	考査 範囲
4月	第1編 青年期と人間としてのあり方・生き方 第1章 青年期の意義と自己形成 1 人間性の特質 2 人生における青年期 3 適応と個性の形成	・「人間とは何か」「私とはだれか」ということを理解し、学習の動機づけとする。 ・青年期の特徴を、心理学的な定義などを通して知る。	1 1 1	1 学期 中間 試験 範囲
5月	第2章 青年期の課題と生き方 1 豊かな自己実現に向けて 2 現代における青年のあり方 2 イエスの思想 3 世界宗教への展開 第2節 イスラーム—啓示と戒律の宗教	・アイデンティティとは何かを知り、青年期にアイデンティティを確立することが重要であることを理解させる。 愛と隣人愛を理解させる。 ・イスラームの成立、宗教的な義務と戒律を中心とするその教えの特徴について理解させる。	1 1 1 1	
6月	第3節 仏教—悟りと慈悲の宗教 1 バラモン教 2 仏陀の思想 3 仏教のその後の展開	・インド思想誕生の母胎となった古代インド社会を概観。 ・ゴータマの悟りの中核とされる中道、四諦、八正道、縁起の法について理解させる。	1 1 1	1 学期 末 試験 範囲
7月	第3章 人生の知恵 1 孔子と儒家の思想 2 儒教の展開 3 道家の思想	・中国思想における天や諸子百家の思想内容を、その歴史的・社会的背景とともに理解させる。 (儒家・道家の思想を中心に)	1 1 1	
9月	第4章 人生における芸術 第3編 国際社会に生きる日本人としての自覚 第1章 日本の風土と外来思想の受容 第1節 日本の風土と人々の考え方 1 日本の風土と人々の生活 2 古代の人々の考え方 第2節 仏教の伝来と隆盛 1 仏教の移入—古代仏教の思想 2 仏教の土着化—鎌倉仏教の思想 第3節 儒教の日本化 1 儒教の伝来と朱子学 2 陽明学 3 古学	・美や芸術の概念を理解し、人生における芸術の意義を考えさせる ・日本の風土の特徴を理解するとともに、この風土における日本人の生き方について考えさせる。 ・今日の生活の中に見られる日本人の宗教観・倫理観について考察させる。 ・日本に移入された仏教が時代とともに変容していく概要をつかませる。 ・日本に伝えられた儒教が、徳川幕藩体制成立のころから日本化されていく過程を理解させる。	1 1 1 1 1 1 1 1	2 学期 中間 試験 範囲
10月	第4節 近世町人文化と民衆の思想 1 町人の思想 2 農民の思想 第5節 国学と伝統文化 1 国学 2 日本の伝統文化 第6節 西洋近代思想の受容 1 西洋文明との接触	・町人文化の隆盛がおこった時代背景を理解させる。 ・古典の研究に始まった国学が、儒学を批判する形をとりながら道の学として大成されたことを理解させる。 ・江戸時代までに形成された日本人の美意識について理解させる。 ・西洋近代思想をささえる精神としてのキリスト教を受け入れた先人の信	1 1 1 1	

	2 啓蒙思想と民権論 3 キリスト教の受容 4 国家主義の高まりと社会主義 5 近代的自我の成立 6 近代日本哲学の成立 7 近代日本の思想傾向への反省	仰と考え方を理解させる。 ・近代化をすすめる明治期の日本のあり方について、国家主義や国粹主義、社会主義の立場で模索した先人の考え方をとらえさせる。	1 1 1 1 1 1	
	第2章 現代の日本と日本人としての自覚	・自己の独自性の自覚とともに、他者の存在を尊重することによって他者と共に「よく生きる」世界がうまれることを考えさせる。	1	
11月	第4編 現代社会と倫理 第1章 現代の特質と倫理的課題	・社会の合理化の過程としての近代社会の特質をとらえ、脱呪術化としての科学技術の発達と進歩の観念について考えさせる。	1	2学期期末試験範囲
	第2章 現代を生きる倫理 第1節 人間の尊厳 1 自己肯定の精神 2 宗教観の転換 3 人間の偉大と限界	・現代社会のものの見方、考え方が近代の人間性尊重の精神に基づいていることを理解させ、その本質について、近代社会の成立を中心に考えさせる。	1 1	
	第2節 自然や科学技術と人間とのかかわり 1 自然への目と科学的なものの見方 2 事実と経験の尊重 3 理性の光	・近代哲学の成立について理解させ、人間の尊厳としての理性主体の考え方が、現代にどのように生き続けているかについて考えさせる。	1 1 1	
12月	第3節 民主社会における人間のあり方 1 民主社会の原理 2 人権思想の展開	・近代において、個人と市民社会がどのようなプロセスを経て確立されたのかを理解させる。	1 1	学年末テスト範囲
	第4節 自己実現と幸福 1 人格の尊重と自由 2 自己実現と自由 3 幸福と功利 4 創造的知性と幸福	・カントが人間の理性能力を吟味し、理性の限界をも明らかにしようとしていたことを理解させる。 ・カントにおける自由と人格の尊厳を中心にその思想的特徴を把握させる。	1 1 1 1	
1月	第5節 個人と社会とのかかわり 1 人間性の回復を求めて—社会主義 2 人間存在の地平—実存主義 3 他者の尊重 4 社会参加と他者への奉仕	・19世紀の西欧の社会状況のもとで、実存主義が成立したことを理解させる。個々の思想家が追究した人間の本来のあり方はどのようなものかを考えさせる。	1 1 1 1	
	第6節 現代における理性の問題 1 生命への畏敬 2 理性主義の見なおし 3 科学観の転換	・生命軽視の傾向が強まる現代社会を鑑み、生命への畏敬を説いた先人の思想を学び、その意義を考えさせる。 ・科学観の転換、科学と社会の関係について考察する。	1 1 1	
2月	第5編 現代の諸課題と倫理 第1章 生命と環境 1 生命倫理 2 環境倫理	・生と死の問題について、具体的な事例を通して考えさせる。 ・環境倫理学の問題提起を、今日の環境問題と関連づけながら考察させる。	1	
	第2章 家族・地域社会と情報社会 1 現代の家族とその課題 2 情報社会とその課題	・高齢化の進行、地域社会の変容など現代社会の課題をふまえ、家族や地域社会のあり方について自分なりに考えさせる。 ・情報リテラシーの必要性を実感させ	1 1	

		るとともに、情報社会における自己実現のあり方について考えさせる。	
第3章 異文化理解と人類の福祉		<ul style="list-style-type: none"> ・地球市民の一人として、多様な異文化を共感とともに受けとめさせ、共生の方向を考えさせる。 ・国際社会が抱えている課題に眼を向けさせ、人類のめざす方向について考えさせる。 	1
1 異文化理解と倫理			
2 人類の福祉			

計 60 時間